

POWERED BY **Dialog**

AUTOMATIC VENDING MACHINE FOR LIVING FLOWER**Publication Number:** 05-076244 (JP 5076244 A) , March 30, 1993**Inventors:**

- KOJIMA HIROAKI

Applicants

- ICHIKAWA ACT KK (A Japanese Company or Corporation), JP (Japan)

Application Number: 03-290304 (JP 91290304) , September 25, 1991**International Class (IPC Edition 5):**

- A01G-005/06
- F25D-011/00
- F25D-017/02

JAPIO Class:

- 11.1 (AGRICULTURE--- Agriculture & Forestry)
- 24.2 (CHEMICAL ENGINEERING--- Heating & Cooling)

Abstract:

PURPOSE: To provide the title vending machine composed of each specific device, capable of maintaining living flowers in a fresh state for a long period of time.

CONSTITUTION: The objective vending machine so designed as to make the air movement therein as little as possible during cooling and ensure virtually a calm state to be maintained, equipped with (A) containers for living flowers for their exhibition and sale, (B) pipes 4 for a cooling medium on the five surfaces 1a to 1f, i.e., the left and right wall surfaces, top and bottom wall surfaces and rear surface, except the front surface for said containers, (C) a cooler C to circulate the cooling medium through the pipes, and (D) a control unit CO for said cooling medium's temperature. (From: *Patent Abstracts of Japan*, Section: C, Section No. 1088, Vol. 17, No. 394, Pg. 119, July 23, 1993)

JAPIO

© 2004 Japan Patent Information Organization. All rights reserved.

Dialog® File Number 347 Accession Number 4084544

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-76244

(43) 公開日 平成5年(1993)3月30日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 G 5/06		7110-2B		
F 2 5 D 11/00	1 0 1 H	8511-3L		
17/02	3 0 1	8511-3L		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-290304

(22) 出願日 平成3年(1991)9月25日

(71) 出願人 591079328

いちかわアクト株式会社

神奈川県海老名市中野430番地

(72) 発明者 小嶋 宏明

神奈川県海老名市中野430 いちかわアクト株式会社内

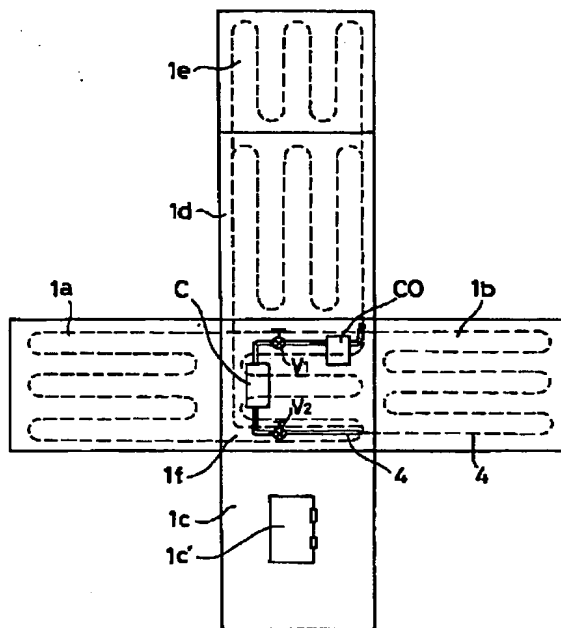
(74) 代理人 弁理士 入江 晃

(54) 【発明の名称】 生花の自動販売機

(57) 【要約】

【目的】 生花を長期に渡って新鮮な状態に維持する。

【構成】 生花を収納する容器の前壁面を除く他の5面に冷却パイプを配設して、冷却中、内部に生ずる空気の移動を可及的に少なく、実質的に無風状態に保つように構成する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 生花を展示販売するために収納する容器と、該容器の前面蓋体を除く左右両壁面、上下両壁面および後壁面に冷却用媒体を流通させるパイプを配設し、該パイプに冷媒を流通させるクーラと、該冷媒の温度を設定する制御装置をそなえた生花の自動販売機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の目的】

【産業上の利用分野】 この発明は、とくに生花の販売に適した自動販売機に関するものである。

【0002】

【従来技術と解決すべき課題】 現在極めて多種の物品の販売に自動販売機が利用されており、そのさい物品の種類によりあるいはその性能の維持のために、冷蔵、温蔵などの手段によって良好な状態に物品を保つような手段が講じられていることは周知のとおりである。

【0003】 しかしながら生花の場合は、これが生物で温度、湿度など適切に保つようにするばかりでなく、無風の雰囲気保持しなければ、無人の条件下で処理を行なう自動販売機を利用することもまた容易はなく、従来この種の自動販売手段は存在しなかった。

【0004】 本発明はこのような事態に対処すべくなされたものであって、生花を長期にわたって新鮮な状態に維持可能とした生花の自動販売機を提供することを目的とするものである。

【0005】

【発明の構成】

【課題を解決する技術手段、その作用】 上記の目的を達成するため、本発明は、生花を展示販売するために収納する容器と、該容器の前面蓋体を除く左右両壁面、上下両壁面および後壁面に冷却用媒体を流通させるパイプを配設し、該パイプに冷媒を流通させるクーラと、該冷媒の温度を設定する制御装置をそなえた生花の自動販売機である。

【0006】 このように構成することによって、生け花を長期にわたって新鮮な状態で維持することができ、その自動販売が可能となる。

【0007】

【実施例の説明】 「図1」は本発明の実施態様を示す生花収納容器の概略斜面図であって、容器1の全面は内部の生花を出し入れするための蓋となっており、さらに、これに購入者が開閉するための開閉扉1c'が設けてある。

【0008】 容器1上面には冷媒を輸送するポンプを含むクーラCと、冷媒温度を制御する制御装置COが配置

2

してあり、前記クーラCから延びているパイプ4（各壁面のパイプは点線で示してある）が、容器1の左壁面1a、右壁面1b、後壁面1d底部壁面1eおよび頂部壁面1fにそれぞれ「図2」に示すように延在埋設してある。

【0009】 また前壁面1cなど適所には、内部の温度を調整するための制御パネルが配置してあり、また内部には販売用の生け花を展示する台5が設けてある。この台5は常時低速で回転するように構成するのが好適である。また図示符号V1、V2は電磁弁である。

【0010】 このような構成によって、クーラCを作動させ、制御装置COによって容器内部の温度を所定のように維持すると、前記のように、前面蓋1c以外の各壁面にはすべて冷却用パイプが埋設してあるので、容器内部は、所定の温度に維持されるとともに、局所的な温度差が生じにくいので空気の移動がほとんどなく、換言すると、容器内は無風状態に維持できるので、生花を長く新鮮な状態に維持することが可能である。

【0011】 冷媒としては公知の適宜の物質を利用できるが、プロピレングリコール（沸点100～113℃、凍結点-80～-℃）、ソーラフロール#200（旭電化工業社製）（沸点183℃～193℃、凍結点0～60℃）などを好適に利用することができる。

【0011】 以上本発明を生花野場合について説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、高価な野菜の販売などにも好適に利用できることは直ちに理解できるところであろう。

【0012】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明によるときは、所定温度に冷却可能な容器内に、無風状態で生花を保存できるので、比較的長期にわたってこれを新鮮な状態に維持でき、特段の管理の手間を要することなく、自動販売機を利用することによって生花を販売することが可能となった。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明による自動販売機の構成を略示する斜面図、

【図2】 同上パイプの配線態様を示す展開図

1	容器
1a、1b、1c、1d、1e、1f	壁面
4	パイプ
5	花台
C	クーラ
CO	制御装置
CP	制御パネル

